

# 日本における気候市民会議の設計は理想的か Is the Design of Climate Citizen's Assembly in Japan Ideal?

林ゼミ\_\_ベイク

気候市民会議(Climate Citizens' Assembly)は、2019年ごろから欧州で広まった環境政策への新しい市民参加の形式であり、2020年ごろから日本でも導入が広がっている。無作為抽出された市民が気候変動に関する問題について学び、討論し、意見をまとめ政策提言を行う。日本では、現在進行中の会議も含めこれまで10件の気候市民会議が行われている。

## 先行研究レビュー・問い

気候市民会議は、行政によるより野心的な環境政策の実施を助ける効果がある。しかし、この効果は、会議の設計に大きく依存する(Kuntze&Fesenfels)。KuntzeとFesenfelsの研究、MadsとIrinaの研究では、欧州の気候市民会議の事例をもとに、気候市民会議の理想的な設計方法を示している。  
⇒日本で行われた気候市民会議の事例が、これらの理想的な設計方法に沿ったものであったかを検証した研究はまだない。

## 研究意義

欧州から取り入れられた、比較新しい取り組みである気候市民会議に関して、日本ではどのように実施されているのか分析・評価することで、今後の日本の気候市民会議の在り方を考える際の手助けとなる。

## 分析手法

[条件の検証方法]  
上記の①～⑥に関して、以下の基準に基づき、各条件を満たしているか否か判断する。

- ①参加者の構成が、市民の縮図となっているか。
- ②丸4日以上時間が費やされているか。
- ③政治的機関以外が、実施主体や事務局を担っているか。
- ④事前に、議会の提言が政策に組み込まれることが約束されていたか。
- ⑤議員全員が、意見を出す機会を得られていたか。
- ⑥専門家によるレクチャーが行われたか。

[分析対象]

- 日本で行われた気候市民会議、以下10件を分析対象とする。
- A: 気候市民会議さっぽろ2020
  - B: 脱炭素かわさき市民会議
  - C: 武蔵野市気候市民会議
  - D: えどがわ気候変動ミーティング
  - E: マチごとゼロカーボン市民会議
  - F: 多摩市気候市民会議
  - G: あつぎ気候市民会議
  - H: かながわ気候市民会議
  - I: 日野市気候市民会議
  - J: 気候市民会議つくば



## 分析結果

○...満たしている。×...満たしていない。△...どちらともいえない。?...公開されている情報が不十分。

列1	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
①参加者	○	○	△	×	○	○	○	○	○	○
②時間	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③独立性	○	?	×	?	×	×	○	○	○	?
④政治的権限	△	△	×	△	△	△	△	×	△	○
⑤意見機会	○	?	?	○	○	○	○	○	○	○
⑥専門家	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



引用)第1回日野市気候市民会議ホームページ

④...「政策に生かす」「政策に繋げる」「政策に反映する」など、曖昧な表現が目立った。→△

⑤...事例の7/10は、各自付箋に意見を書いて模造紙に貼り、それをもとにグループで意見交換を行うという手法が用いられた。

## 考察

- おおむね理想的な設計が行われていた
  - ・参加者の構成
  - ・時間の設定
  - ・意見機会の公平性
  - ・専門家によるレクチャー

- 設計が不十分であった
  - ・独立性
  - ・政治的権限

↓

### 今後の改善

- 実施主体が政治的機関の場合、事務局は政治的機関以外に委任する。
- 議会の提言の利用に関しては曖昧な表現を避け、提言が行政に組み込まれることを約束する。

- 日本の気候市民の特徴
  - 他国では国主催で実施されているが、日本では自治体主体が多い。

### →目的

参加者と周辺のコミュニティの環境意識/環境配慮行動の変容

▽

### 政策変革

しかし、政治的権限の付与は市民からの注目度を高める効果がある。政治的権限の必要性を再確認すべき。

## 参考文献

Kuntze, L. & Fesenfels, P. L. (2021). Citizen assemblies can enhance political feasibility of ambitious climate policies.  
Mads, E., Adam, V., & Irina, P. (2023). Green politics beyond the State: Radicalizing the democratic potentials of climate citizen's assemblies.  
OECD. (2020). Innovative Citizen participation and new democratic institutions: catching the deliberative wave. OECD Publishing, Paris. <https://doi.org/10.1787/339306da-en>. (P.34).  
日野市. (2023). 第1回日野市気候市民会議. [<https://www.city.hino.lg.jp/kurashi/kankyo/co2/1024590/1024593.html>]  
室橋祐貴. (2023). 日本で広がりつつある「気候市民会議」。次の課題は？ [<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/a237a6fbdd9d8db101231e4de8e79f3fcd084087>]  
山下紀明, 本巢芽美, 相川高信, 茅野恒秀, 蔵田伸雄, 山下英俊, ...三上直之. (2022). どうすればエネルギー転換はうまくいくのか. (PP. 334-350). 新泉社.